

O Jジャーナルジャッキ (J J)
アルミニウムジャッキ (A J)
爪付ジャーナルジャッキ (N J)

取扱説明書

『取扱説明書をよく読み、内容を理解してからご使用下さい。
また、取扱説明書はいつでも読めるよう保管して下さい。』



1. 適用

- a. 本ジャッキは下記用途に使用して下さい。
・ジャッキアップ、ジャッキダウン（重量物の昇降） ・重量物の位置決め
・重量物の支持 ・橋梁工事 ・造船工事および補修 ・土木および建築工事 等
b. 動力駆動はできません。必ず手動により操作を行なって下さい。

2. 仕様

使用温度範囲：-20℃～+60℃

2.1. ジャーナルジャッキ (J J)、アルミニウムジャッキ (A J)

形式	諸元	揚力 (kN)	揚程 (mm)	最低高 (mm)	ヘッド径 (mm)	ベース径 (mm)	質量 約(kg)	操作トルク 約(Nm)	付属品 ハンドル棒
低揚程	JJ-1513	150	125	255	63	113	12	420	φ25×600L
	JJ-2513	250	125	255	77	127	16	700	φ25×700L
	JJ-3513	350	130	280	87	147	24	1000	φ32×700L
	JJ-5013	500	130	290	105	166	31	1400	φ32×800L
JJ-10011	1000	105	310	127	235	75	1000	φ32×1500L	
中揚程	JJ-1015	100	150	280	65	108	12	250	φ25×600L
	JJ-2525	250	250	395	77	127	21	700	φ25×700L
	JJ-3020	300	200	350	95	148	26	850	φ25×700L
	JJ-3525	350	250	410	87	147	32	1000	φ32×700L
JJ-5025	500	250	445	105	166	42	1400	φ32×800L	
高揚程	JJ-2533	250	330	485	77	127	25	700	φ25×700L
	JJ-3535	350	350	535	87	147	37	1000	φ32×700L
	JJ-5035	500	350	555	105	166	47	1400	φ32×800L
A J	AJ-1008	100	80	175	58	102	6.1	250	φ27.2×575L
	AJ-1510	150	100	200	58	102	6.8	420	φ27.2×575L
	AJ-2510	250	100	200	73	122	9.5	700	φ32×675L

(注) 操作トルクは定格荷重時のハンドルトルクを示す

2.2. 爪付ジャーナルジャッキ (N J)

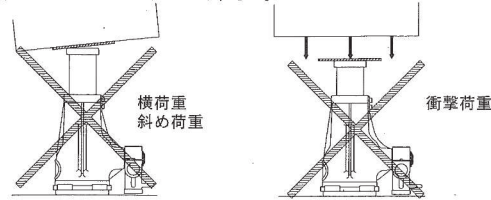
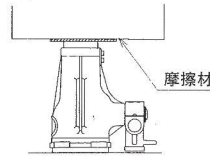
形式	諸元	爪部揚力 (kN)	揚程 (mm)	最低高さ (mm)	爪までの高さ (mm)	爪の幅 (mm)	爪の奥行 (mm)	質量 約(kg)	付属品 ハンドル棒
N J	NJ-0615	60	150	290	30	70	45	23	φ25×600L
	NJ-1013	100	125	266	40	75	50	29	φ25×600L
	NJ-1513	150	125	270	45	80	50	38	φ25×600L
	NJ-2513	250	130	298	55	90	55	60	φ32×700L
	NJ-3513	350	130	315	60	100	55	78	φ32×800L

3. 使用上の注意事項
警告

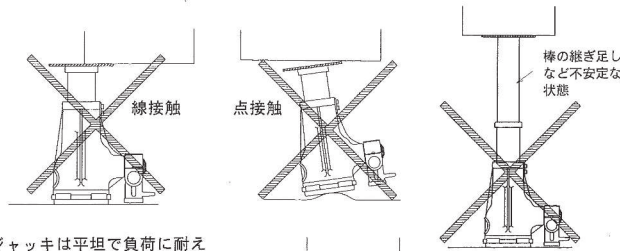
この取扱説明書で全ての状況をカバーすることはできません。常に安全第一に心がけて作業をおこなって下さい。

人身事故防止及び機器損傷防止のため、使用前に取扱説明書を必ず読んで下さい。
・ジャッキ操作は経験者または責任者の指名した人が操作して下さい。

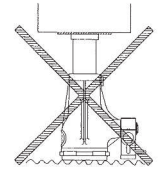
- ジャッキ揚力を超えた荷重を負荷させないで下さい。
- ジャッキは堅固な基台に設置し、倒れないよう適切に支持して下さい。
- ジャッキの荷重受部及びジャッキベースには滑らないように、摩擦材(板)を挟んで下さい。
- ジャッキを操作しない時は、ハンドル棒を抜き、安全な場所に置いてください。高所での作業時はハンドル棒を落下させないよう注意して下さい。
- 損傷したジャッキや、改造及び整備不良のジャッキは使用しないで下さい。
- ジャッキに斜め荷重や衝撃荷重を負荷させないで下さい。静的な垂直荷重のみとし、風や外力、横荷重がかからないようにして下さい。



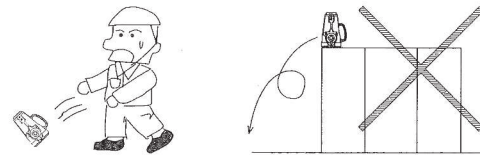
- 荷重中心部で垂直に、かつ全面で荷重を受けて下さい。線接触、点接触や不安定な状態で荷重を受けるのは危険であるほかジャッキの故障につながります。



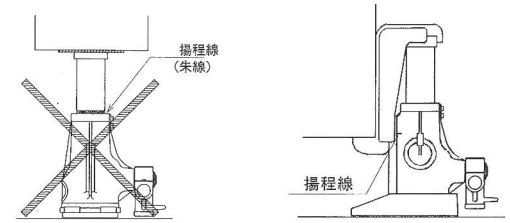
- ジャッキは平坦で荷重に耐える地盤(コンクリート)又は、基台(木材又は鋼製)に設置して下さい。振動や揺れのある所に設置しないで下さい。



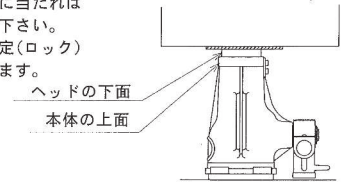
- ジャッキは投げつけたり、落としたりしないで下さい。特にアルミニウムジャッキ (A J) は注意して下さい。



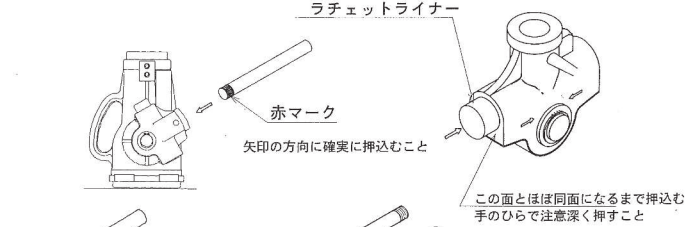
- ジャッキのラム揚程線(朱線)を超えて操作しないで下さい。無理に操作すると「ねじ」が固定(ロック)しジャッキが動かなくなります。



- ジャッキヘッドの下面が本体に当たればそれ以上降下操作はしないで下さい。無理に操作すると「ねじ」が固定(ロック)しジャッキ故障の原因となります。

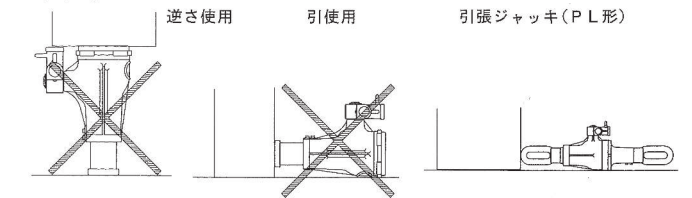


- 付属(指定)のハンドル棒を使用し、ラチェットハンドルの穴底まで確実に差し込んで下さい。ハンドル棒の赤マークが見えなくなるまで完全に差し込むこと。また、ラチェットライナーを確実に押し込むこと。

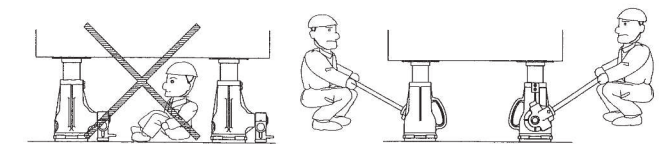


O Jジャーナルジャッキ(JJ)のハンドル棒は1本物です
アルミニウムジャッキ(AJ)は「ねじ」で2本つなぎになっています

- 逆さ使用や引き使用はしないで下さい。引張使用の時は引張ジャッキ (P L形) を用いて下さい。



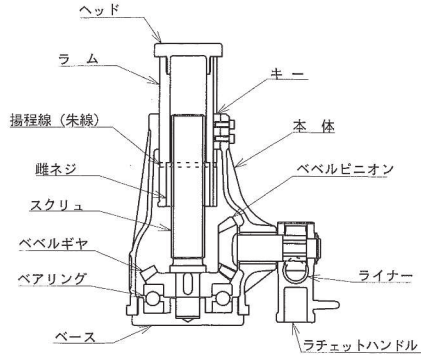
- 操作者は安全な位置で操作して下さい。持ち上げた荷重には確実なサポートを挿入し、安全が確保されるまでは、その荷重の下に入らないで下さい。



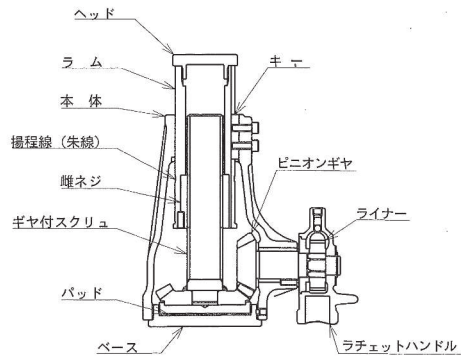
安全作業をおこなうためヘルメット、手袋、安全靴、作業着の着用をお勧めします。

4. 各部名称と構成

4.1. O J ジャーナルジャッキ J J 形 (100~500kN)



4.2. アルミニウムジャッキ A J 形



5. 使用前の点検

- 作業者自身が、ジャッキ使用直前に行なう点検です。
- ①ラチェットハンドルを廻動しラムが円滑に揚降するかどうか調べて下さい。
- ②外観チェックを行ない正常であることを確認下さい。

6. 操作要領

- 6.1. 一般
 - a. ハンドル棒操作は手動で行なって下さい。
 - b. ジャッキを設置する場所は地盤及び扛上物の負荷耐力のあることを確かめ、ジャッキを荷重に対して垂直に据え付け、負荷重心に対して安定して扛上できるようにジャッキを設置して下さい。
 - c. ジャッキヘッドと被扛上物の間に摩擦材(木材あるいは紙片など)を挟んで下さい。NJ (爪付きジャーナルジャッキ)タイプは爪部と被扛上物の間に摩擦材を挟んで下さい。これは、ジャッキ上の被扛上物が傷ついたり、あるいは滑るのを防ぐためです。
 - d. ジャッキ設置は安全な位置で操作及び調整できるように作業スペースを考えて下さい。
 - e. 揚力に余裕のあるジャッキを選定して下さい。
 - f. 本ジャッキは屋内使用の設計となっています。雨、水の浸入対策構造とはなっていません。屋外使用や雰囲気の良い場合はメンテナンス間隔を短くして下さい。特に、グリス給脂並びにグリス塗布を頻りに行なって下さい。屋外長期使用又は海岸等環境条件が非常に悪い場合は別途ご相談下さい。

- g. ジャッキ設置基盤が弱い場合や不安定な場合は弊社の安全台をご使用下さい。弊社のジャーナルジャッキには安全台が使えるようベース部に突起が付いています。ただし、アルミニウムジャッキ(AJ)、爪付ジャーナルジャッキ(NJ)には安全台は使用できません。
 - h. 降下作業は荷重のバランスを崩してはなりません。ジャッキのストロークが足りないときは、一旦サドルやスペーサで荷重を仮受けするなどして荷重を受け替え、バランスに注意しながら順次降下作業を続けます。但し、アルミニウムジャッキ(AJ)の使用は適当ではありません。
 - i. 設置したジャッキに荷重を載せる場合は、衝撃荷重が加わらないように載せて下さい。
- 6.2. 複数のジャッキを使用する場合
- a. 複数のジャッキを使用する場合は不均等荷重が発生しやすいため、また安全のため、揚力に充分余裕のあるジャッキを選定して下さい。この場合、通常ジャッキ揚力の50~70%以下でご使用下さい。
 - b. 操作の指示、合図
ジャッキ操作は負荷の移動量を監視し、全体のバランス、重心位置を見ながら操作の指示を行なって下さい。特に複数ジャッキを使用する場合は、各ジャッキの操作順序など指示系統を事前によく打ち合せし、間違いのないよう操作を行なって下さい。

6.3. 操作方法

- a. 使用前の点検
- b. 荷重の重心とジャッキの配置を検証して下さい。
- c. ハンドル棒はラチェットハンドルの穴底まで確実に差し込みます。不完全の場合は操作時滑り抜けますので必ず確認をして下さい。尚、アルミニウムジャッキ(AJ)のハンドル棒は「ねじ」の2本つなぎになっています。確実にねじ込んでからご使用下さい。
- d. ジャッキを上昇させるときは、ラチェットハンドルのライナーを矢印「UP」の方向へ確実に押し込みハンドル棒を上下に廻動操作します。
- e. ジャッキを下降させるときはライナーを矢印「DOWN又はDN」の方向へ確実に押し込み注意深く(ゆっくり)ハンドル棒を上下に廻動操作します。
- f. ジャッキの上下作動時は常に被扛上物の安定に注意して操作して下さい。

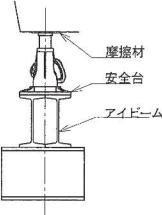
7. 安全台(オプション)

ジャッキの設置基盤が弱い場合や不安定な場合、ジャッキの安定を良くするために使用します。ジャーナルジャッキ(JJ)は安全台に取り付けられるよう、はめ込みの構造になっています。ジャッキの設置基盤が弱い場合にはぜひ安全台をご使用下さい。ただし、ジャーナルジャッキのJJ-10011、アルミニウムジャッキ(AJ)、爪付ジャーナルジャッキ(NJ)には使えません。

使用法
安全台の上にジャッキを乗せ、ジャッキを約45度回しますと装着されます。



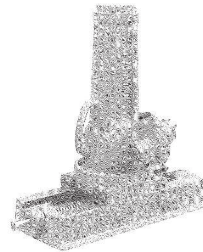
安全台の設置例



8. 送り台(オプション)

送り台はジャッキに荷重をかけたままで横移動させる時に使用します。ジャーナルジャッキ(JJ)は、送り台にはめ込みできる構造になっています。ただし、ジャーナルジャッキのJJ-10011、アルミニウムジャッキ(AJ)、爪付ジャーナルジャッキ(NJ)には使えません。

- 使用法と注意
- a. 送り台の上にジャッキを乗せ、ジャッキを約45度回しますと、送り台にジャッキは装着されます。
 - b. 付属のハンドル棒により、送りねじ軸を廻動させると、横移動します。荷重のバランスを崩さないよう注意しながら操作して下さい。
 - c. 送り台は水平に設置するよう注意して下さい。
 - d. 荷重横移動時の沈下、浮上があってはなりません。



9. 保守管理

9.1. 使用者の点検
点検計画

項目	点検内容	使用前 ※(1)	定期 ※(2)
外観	銘板	○	○
	本体及びラチェットハンドル	○	○
点検	ヘッドまたは爪ベース	○	○
	ラム、キー	○	○
作動	ボルト類	—	○
	ラチェットハンドル	○	○
点検	スクリューネジ	—	○
	無負荷揚降作動	○	○
分解及び摩耗点検	※(3) (メーカーチェック)	—	—

注※(1) 使用前点検：操作者による始業時毎の点検

注※(2) 定期点検：経験者または責任者の指名したものが行なう点検

- ※(3) 外観点検及び作動点検により内部不具合の徴候を示したとき。
 -記録を残し継続評価の基礎とする。
 - : 使用頻度、使用環境を考慮して定期的におこなって下さい。
 - ①使用頻度が少ない場合 (約月数回使用) : 3ヶ月毎
 - ②使用頻度が多い場合 (約週数回使用) : 1ヶ月毎
 - ③屋外使用または使用環境条件が悪い場合 : 1週間毎

9.2. 使用者保守、整備

- a. 潤滑(給脂).....ジャッキ各摺動部のダスト除去を行い、グリス給脂および塗布を必要に応じて定期的に行なって下さい。指定グリス：ダフニーエポニックスグリス EP No1 または相当品
- b. 清掃.....雨や砂、砂塵にさらされたジャッキは使用前に清掃して下さい。ハンドル棒や荷重受部は滑らないよう清掃しておいて下さい。
- c. 保管.....ジャッキは雨風や砂塵、湿気から守られている場所(屋内保管が好ましい)で保管して下さい。
- d. 銘板.....銘板の表示が不明瞭になった場合、お客様にてお取り替え下さい。

9.3. メーカー点検整備

ご購入後1年または、3年毎に弊社又は、お買い上げの販売店へお申し付け下さい。点検費は実費でご請求申し上げます。

- 1年毎：使用頻度が多い場合 (約週数回使用)
- 3年毎：使用頻度が少ない場合 (約月1回使用)

10. 保証

弊社製品は納入引渡後1年の保証を行なっています。万一、加工上及び材質上の欠陥による弊社の責に帰する故障や不具合が発生した場合は新品と交換又は無償で修理致します。但し、欠陥や故障に付随して発生する損害に対しては責任を負いません。又、誤使用・乱用、保守不全不当な修理・改造、天災・災害及び、目的外の用途に使用して発生した故障・損傷に対しても責任を負いません。

11. 修理

修理の際は下記へご連絡下さい。送付先ご回答申し上げます。

連絡先 干632-0097 奈良県天理市中町2番地 TEL(0743)64-1511
 大阪ジャッキ製作所 天理工場 FAX(0743)64-0781

干136-0074 東京都江東区東砂7丁目19-2 TEL(03)3646-3791
 大阪ジャッキ製作所 東京営業所 FAX(03)3648-0630

干546-0043 大阪市東住吉区駒川1丁目8-29 TEL(06)6714-2881
 大阪ジャッキ製作所 大阪営業所 FAX(06)6719-3377